

松尾山は、小早川秀秋の陣跡で東軍を勝利に導いた。南宮山は、毛利秀元の陣跡です。西軍の大將毛利輝元が入る予定だったところです。山城からの眺望・山城の遺構散策・眺望・自然観察とたっぷり楽しみ、歴史ロマンに花咲かせました。

## ◆ハイキングの様子



コブシの蕾↑



松尾山は標高293メートル、関ヶ原の戦いの主戦場を一望でき、遠くに東軍が集結した旗山(大垣市)、西軍の拠点・大垣城、毛利勢が布陣した南宮山(垂井町)等も眺め渡せ、両軍の動きが手に取るようにわかる重要な地点だった。

慶長5(1600)年8月、石田三成は大垣城主・伊藤盛正に命じ、山頂にあった松尾山城跡を改修、西軍の総大将・毛利輝元を招き入れようと画策したが、結局、輝元は出陣せず、小早川秀秋が戦いの前日9月14日に約1万5千の兵を率いて布陣した。

秀秋は西軍に与しながらも、以前から悪感を感じていた徳川家康に対して事前に内応を約束していたが、戦いが始まってからも、家康の平庭頼勝や先鋒の松野重元(主馬)の意見が割れていた上、眼下の西軍は警戒している。午前11時頃に三成が上げた総攻撃の烽火も無視し戦況を傍観する。

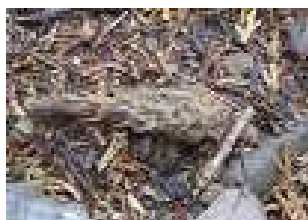
こうした秀秋の意図が切らぬ態度にしばれを切らした家康は、一敗に松尾山に向け鉄砲を打ち威嚇したといわれる。秀秋は遂に意を決し、大谷吉継へ孝先を向ける。これに逆襲し、松尾山麓の葛坂安右らも返ったため、大谷隊は壊滅し、西軍は一挙に崩壊する。秀秋は東軍を勝利に導く大功を挙げた。

戦後はその功で備前・岡山にて大封を得たが、2年後、21歳の若さで没し、家は断絶した。

## 小早川秀秋陣跡の説明 ↑ 松尾山



熊の爪痕



エビフライ：リスが食す



タカノツメの黄葉



落葉の甘い香りが漂う



松尾山の遺構を散策



松尾山城の歴史



主郭で記念撮影



主郭



城跡遺構を散策



堀切の土橋に立つ



馬出状の曲輪



切岸



谷底を空堀に削平







山頂から、各山城跡の位置を、みなさんで確認しながら関ヶ原合戦の歴史ロマンにワイワイガヤガヤ・・・  
 良いお天気で眺望も良く、たっぷり楽しみました

### ◆南宮山ハイキング記:毛利秀元の陣跡



御神木の前で



展望台から御嶽山や関ヶ原の合戦の武将の陣跡を楽しむ

カンボクの実

下山

記念撮影

お疲れさまでした